

# 平成 28 年度第 1 回 宮城野区区民協働まちづくり事業評価委員会 企画事業実績報告及び事後評価 議事録

日 時：平成 28 年 5 月 26 日(木) 午後 6 時～

場 所：宮城野区役所 4 階第一会議室

出席者：吉川委員長，有坂副委員長，庄子副委員長，  
葛西委員，平塚委員  
まちづくり推進課 村上課長，藤井係長，  
市川主任，高橋主任，福田

## 1 開会

## 2 挨拶 吉川 時夫 委員長

## 3 評価方法について

事務局より説明

## 4 事業報告（以下（ ）内は実施団体または担当課。）

※総評は、委員会当日に各委員により記入された評価シートのコメントをまとめたもの。

### (1) すずむしの里づくり事業（実施団体：すずむしの里づくり実行委員会）

<質疑>

- ・今後、出張講座を行う学校を増やす予定はあるか？  
→現在回っている数で手一杯で、マンパワーの問題で増やせない状況にある。
- ・メンバーの補強や若者の取り込みをどのように工夫したか？  
→すずむし講座を開催した中から 2 名、そのほかに入会した方が 1 名ということで、メンバーが増えた。現在は 20 名ほどのメンバーで活動している（市民センタースタッフ含む）。
- ・小学校への出前講座が好評とのことだが、ボランティアが集まらない理由はなにか？  
→講座を一回行うにもいろいろ準備や打ち合わせが必要で、負担感が大きい。

<総評>

- ・7 校の小学校が「すずむし」の拠点となるようアフターフォローも積極的に行って事業の質を深めてほしい。
- ・良い事業だと思います。大変手間のかかる事業ですが、ぜひ継続してください。
- ・健康に気をつけてがんばって続けてください。
- ・すずむしの里づくりの意義とこれまでの活動をさらに広く区民に伝えることで、事業への理解と協力を深めることが大事。市内外、全国のすずむし愛好会などとの交流や連携の可能性を探ってみると良いかもしれない。

### (2) 震災復興地元学作成事業（実施団体：未来に伝えたい中野・岡田の会）

<質疑>

- ・配布先と部数を教えてほしい  
→部数は 1 巻につき 4000 部。配布先は当該地域の町内会のほか、復興定期便に同封したり、市内公共施設へ配布をしている。今年度はマスコミに取り上げられたこともあり問い合わせも多かった。
- ・今後の活動としては、宮城野区仙台、仙台市全体への展開をどのように考えているか。  
→本事業の活動内容や「地元学」の活動の周知もしていきたい。中野・岡田地区についても冊子で拾いきれなかったことなどを掘り下げていきたい。
- ・高砂笑点はとてもいいプログラム。多世代交流や次世代の取り込みができています。

<総評>

- ・高砂笑点のこれからの展開と活用に注目していきたい。
- ・大変手間のかかる事業でした。被災した宮城野区の地域の想いを記録して残せたのは大変意義のあることでした。
- ・3年間で6冊、地域毎に冊子を完成させ、住民に配布、記録として残すことが出来たことを評価したい。

(3) みやぎの・まつり (実施団体：みやぎの・まつり実行委員会)

<質疑>

- ・雨対策はどのように対応したか。  
→予算が限られていたため、検討はしたが具体的な対応はしなかった。
- ・新しく出店したい団体はどのように応募すればよいか？  
→毎年公募で行って募っておりそこに申し込んでほしい。
- ・実行委員のメンバー構成はどのようになっているか。  
→当て職で若干の入れ替えはあるが、今後は若者の取り込みなども積極的に行っていきたい。

<総評>

- ・マンネリにならないような祭りにしてほしい。
- ・毎年にぎやかで楽しみにしています。
- ・また新しい企画も楽しみにしています。
- ・何らかのかたちで震災関連や復興状況を区民に伝えてほしい
- ・区民手作りの顔の見える関係を保ちながら、まつりに関わる主体や団体を広げ、宮城野区を盛り上げて欲しい。

(4) 地域はっぴい子育て支援事業 (実施団体：みやぎの区民協議会子育て支援部会)

<質疑>

- ・手帳の作成部数は？  
→2800部。アンケートもいくつか回収しており、好印象の回答を得ている。
- ・アンケートの回収率は？  
→少ないが、いただいた声を大事にしていきたい。
- ・mama 宮は第二期だが、今後部会を支える人材になるか？  
→すぐには難しい。今後区の子育てを考えてくれる人材になってほしいと考えている。
- ・一期生は今どうしているか？担い手となる若い世代の取り込みを継続して工夫してほしい。  
→仕事に復帰したりなどしているが、連絡は取り合っている。

<総評>

- ・mamma 宮を自立させていってほしい。いずれはハッピー子育て部会のメンバーとなって宮城野区の子育てを考えてくれるように。
- ・子育ては大事なこと、頑張ってください。
- ・良い事業です。認識と高め、幅広い母親さんの参加になっていただければと思います。
- ・これまで出来た実績を踏まえて、さらに手帳の活用の効果を「宮城野区モデル」として発信し、着実に活動を続けて欲しい。

(5) ビジネス・マーケティング塾 (実施団体：ビジネス・マーケティング塾実行委員会)

<質疑>

- ・参加チーム2チーム、1校という応募数をどう振り返っているか。  
→マンパワー不足だったこともあるが、PR不足だったと感じている。
- ・生涯学習支援センターにいるスタッフは、学校の先生が社会教育主事になった方々なので、そことタイアップすれば中学校とのパイプになりうるのではないか。
- ・学校からのチラシだったが、児童館などには設置していないか？児童館も中学生の居場所になっ

ているので、児童館への設置も検討してほしい。

→初期は児童館にも置いていたが、あまり効果が見えなかったため、今は学校のみ設置。

・今回参加した中学生はどんなところに魅力を感じて参加してくれたか？事業をあまり知らない人からすると、あまり魅力が分からないので、魅力を明確にアピールした方がいいと思う。

→今回は中学校の先生が協力してくれたことが大きい。おそらく「稼げる」ということが、普段経験できないことで魅力に感じているのだと思う。

・起業家育成というのは仙台市としても取り組む課題だと認識しているので、委員会の体制や学校とのつながりなどを工夫して、事業を盛り上げてほしい。

・決算を見るとチラシの単価が高く設定されているので、より効果的な広報を工夫してほしい。

<総評>

・生涯学習支援センターをまきこんで続けてほしい。職場体験を通して社会に関わることは大切だと思う。

・事業の運営に工夫を。

・告知を広めて、多くの中学生の活動参加を期待します。

・地元商店街、関係機関との連携の強化はもちろん必要だが、アドバイザーとして、起業支援をしている仙台市の施設やNPO団体などとの連携も考えるのも一手だと思われる。

#### (6) 原町ひともまちも元気なまちづくり事業（実施団体：原町まちづくり委員会）

<質疑>

・専門家の方はどういった立場の方か？

→委員会の運営について助言をいただくコーディネーターの立場。

・メンバーどのくらいいたのか？

→初期は10人程度いたが、最終的には7,8名。男女比は最後は5分5分。一番若いメンバーで30代前半、上は50代という年齢層で構成されていた。

・活動したメンバーはそれなりの経験を積んだので、事業が終わっても今後につながる人材を育成できたと思う。

<総評>

・人材を放出できるくらいの経験をしたと思います。ぜひこの経験を次に生かしてほしいです。

・事業の目的、狙いが達成されていない。

・経験を活かしてぜひまた地域を元気にして頂けることを期待しております。

・25年度、26年度のイベントはとても盛会で地域コミュニティのきっかけになったと思います。お疲れ様でした。

・3年間継続して実施して分かった、地域課題を次のステージで活かすよう活動を続けて欲しい。

#### (7) ご近所ふれあいステップアップ事業（担当課：宮城野区区民生活課）

<質疑>

・ちょボラ会というのはどういう活動をしているのか。

→「ちょっとボランティア」をする会で、震災後に中学生が地域ボランティアに取り組んだ活動が、今小学生に引き継がれているもの。会の名前はいわきり独自だが、同様の活動は他地域でも実施されている。

・推進委員のメンバー構成は？

→いわきり地区の町内の委員、社協、民生委員、健全育成委員会といった方々で構成されている。

今後また別のモデル地区を指定して、その地域ごとに委員会が立ちあがり活動していく。

・多世代が関わるものにしてほしい

→いわきり地区は広く、交流という点では地域の中に川が流れていたり地理的な難しさもあった。今回の事業をきっかけにまとまりができたという効果もあったし、今後よりいっそう深めてきたい。

<総評>

- ・モデル地区が終了してもこのつながりが続くことを願っています。
- ・これまでの活動をふまえこれからも続けていってほしい。
- ・岩沼のモデル地区で蓄積した、事業や地域との関係団体とのつながりを維持した地域づくりを、他の地区でも進めて欲しい。

(8) 地域防災力向上 (担当課：宮城野区区民生活課)

<質疑>

- ・セミナーの具体的な内容は？

→ニューオーリンズのハリケーン被害からの復興の講話。この回は海外の事例で、アンケートの結果でも日本国内の震災・復興の事例が知りたいという声が多かったので、次回の企画の参考にしたい。

- ・ハリケーン被害の貧困層への影響は？

→ルイジアナの復興の過程で物価があがり、避難した人全員がまたルイジアナに戻れたわけではないとのこと。特に貧困層は、物価上昇によって戻れなかったり、避難できなかった貧困層の課題は従前のまま。

<総評>

- ・宮城野区版、防災・減災に関する知識も聞けると尚良いかと考えます。
- ・H28年度の事業に期待しています。
- ・宮城野区として復興と共に、これからは備えた内容もとりいれて欲しい。
- ・防災減災に関する知識が得られるように努力してほしい。
- ・これからのさらなる高齢化社会に向けて、より理解を深め、共存できるよう、活動の普及を望みます。
- ・防災減災に関することは、区民の大きな関心事である。地域の事情に合わせた講演内容が期待される。さらに、多くの区民が参加できるように広報などに工夫をすると良い。

(9) 宮城野地域こころの健康づくり事業 (担当課：宮城野区障害高齢課)

<質疑>

- ・啓発のために取り入れている寸劇だが、区内には他に寸劇をやっている団体が他にもあり、それぞれ特色がある。色々なバリエーションで企画してみしてほしい。

- ・よい取り組みだと思うので、地域への広報をもっとやってほしい。家庭健康課と組めば広く広報できるのではないかな。

→包括支援センターごとに包括圏があり、なかなか全区的な取り組みになっていきにくいですが、検討していきたい。

<総評>

- ・ぜひもっと広く告知してほしい。まんべんなく助成金を全宮城野区で生かせるようにしてほしい。
- ・全区的な捉え方で開催してもいいと思う。
- ・大事な問題の取り組みで今後もやってもらいたい。
- ・個々のニーズに合わせるには、町内会や、民生員、包括センター等の各機関の連携が大事。区内にも幾つか市民劇団があるようなので、台本を共有するなどして、地区毎で開催することも検討してほしい。

(10) おらほの公園草刈隊支援事業 (担当課：宮城野区公園課)

<質疑>

- ・草刈隊として登録されている団体はどのような団体か？

→スポーツ少年団や企業、町内会など母体はさまざま。

- ・貸し出している機材のメンテナンスはどうしているか。  
→基本的には毎回返却後にメンテナンスを行っている。簡単な作業は職員が、専門的なメンテナンスは専門会社に依頼している。外注するメンテナンスは1回一台900円程度。メンテナンスではないが、区役所まで機材を取りに来れないということで、職員が公園まで機材を配達しているケースもある。時間の調整や、窓口対応の職員が対応しなければならないこともあり、課題であると感じている。
- ・登録団体は企業も多いとのこと。CSRを積極的に受け入れて、企業側にもメリットがあるような見せ方ができるといいのでは。  
→公園によっては、清掃している企業の名前を掲示しているところもある。ただ、名前を掲示すると「次はいつ清掃してくれるのか」と、期待されているからだと思うが催促されることもあるようで、企業が関与している公園すべてで実施しているわけではない。登録していない企業でも自主的に公園の清掃を実施している企業もあるので、この制度を使って公園美化にさらに協力してほしい。
- ・この事業は他区でも実施しているのか？  
→宮城野区独自の事業。

<総評>

- ・企業の参加はメリットを打ち出せば広がるかもしれない。機械の更新が課題。
- ・草刈隊が増えるような良いしかけを考えてほしい。
- ・機械の買い替えの検討をぜひしてほしい。
- ・地域の安全防犯を守るためには、公園などの環境を維持することが必要なので、ボランティア団体はもちろん企業への参加を促すように周知の広報を工夫していくと良い。